

コード	名称	区分	コード	名称
事業名	465 救急医療事業	会計	01	一般会計
		款	04	衛生費
		項	01	保健衛生費
		目	01	保健衛生総務費
基本 施策	02 身近なところで高度な医療を提供する	細目	242	地域医療対策事業
		細々目	51	救急医療事業
行革大綱の重点事項番号				
担当部署	コード	131000	担当者 氏名	田中 満
	名称	健康福祉部 地域医療対策室		連絡先

事務事業の概要(Plan)

対象(誰を、何を)	市民	※対象件数
成果(どうする)	2次救急医療体制に空白日を生じさせない。	
根拠法令・要綱等		
開始年度	平成	年度
終了年度	平成	年度
H22 事業 内容	病院群輪番制運営事業として、市内の2病院と名張市立病院の3病院で時間外の救急医療体制を確保する。	
	社会情勢 の変化等	
医師の過重労働の軽減のため、一次・二次医療の役割分担を整備し、休日・夜間の応急診療所を開設し、医療体制を確立した。さらに平成20年4月から、名張市立病院を入れた3病院での二次医療輪番制を実施。また、21年度3病院輪番体制を維持継続するために、民間病院への支援が新規に発生。		

整備内容(「施設の建設」「整備事業」のみ記入)

1 建設用地	
2 建設面積 (延床面積)	
3 規模・構造	
4 総事業費	千円

運営体制(「施設の建設」「施設の管理・運営」のみ記入)

1 運営主体	
委託先	
2 配置人員	人
3 年間運営費	千円
4 市内の 類似施設	

事務事業実施にかかる業績とコスト(Do)

活動指標	指標名	単位	実績値		目標値	
			H21	H22	H23	H24
伊賀市救急相談ダイヤル24広報による周知	回	回	目標	3		
			実績	3	2	2
			目標			
			実績			

成果指標	指標名	指標設定の考え方	単位	実績値		目標値	
				H21	H22	H23	H24
伊賀市救急相談ダイヤル24相談件数	件数	深夜帯等における軽症者の対応が可能となる	目標	2,700	4,200	4,200	
			実績	3,691			
			目標				
			実績				

投入コスト	直接事業費計(A)	H21 決算	H22 決算	H23 当初予算	H24 当初要求
		(千円)	(千円)	(千円)	(千円)
Aの 財源 内訳	国庫支出金	129,782	135,598	84,844	84,844
	県支出金	2,822	2,125	2,786	2,786
	地方債				
	その他	83,407	61,176	24,610	24,610
	一般財源	43,553	72,297	57,448	57,448
事業投入人件費(B)		1.0人	7,200	1.0人	7,200
フルコスト(A)+(B)		136,982	142,798	92,044	92,044

事務事業の評価(Check)

判断の基準(該当項目に○をつけてください)		備考欄(特記事項)
必要性	法律(条例は除く)で実施が義務付けられている事業	
	個人の方だけでは対処し得ない社会的・経済的弱者を対象に、生活の安定を支援し、あるいは生活の安全網(セーフティネット)を整備する事業	○
	特定の市民や団体を対象としたサービスであるが、サービスの提供を通じて対象者以外の第三者にも利益が及ぶ事業	
	事業開始からの目標・目的を概ね達成している事業	
	市民にとっての必要性は高いが、多額の投資が必要、あるいは事業リスクや不確実性が存在するため、民間だけではその全てを負担しきれず、これを補完する事業	
	市民が社会生活を営むうえで必要な生活環境水準の確保を目的とした事業	○
	国や県、民間が同様のサービスを提供している事業	
	市民の生命、財産、権利を擁護し、あるいは市民の不安を解消するために必要な規制、監視、指導、情報提供、相談等を目的とした事業	○
	民間のサービスだけでは市域全体に望ましい質・量のサービスが確保できず、これを補完・先導する事業	○
	受益の範囲が不特定多数の市民に及び、サービス対価の徴収ができない事業	○
事業の対象や環境の変化により、事業ニーズが薄れていない事業		
【○をつけた場合、ニーズの具体的内容、根拠となるデータ等判断理由】	○	
救急医療の受診。平成22年中伊賀市消防による救急搬送件数:4,191件		
財政状況を考慮し、事業を休止した場合、市民生活への影響が大きい事業	○	
【○をつけた場合、影響の内容及び判断理由】	○	
救急医療が受けられない事態になる。		
有効性	事務事業の継続、達成度や実績を高めることで成果指標の向上が期待できる。	○
	基本施策の目的を実現するために現在の事務事業の内容は適切であり、基本施策に対して貢献度も高	○
	サービス水準や対象を見直す余地がある。	
達成度	当初設定した計画を 80%以上100%未満 実施している。	【計画に遅れが生じている場合、改善策】
	予算の繰越の有無 無	関係機関との協議を進める。
	【予算の繰越がある場合、繰越の種類】	
効果性	他の事業主体の活用、事業移管が可能である。	
	基本施策の中で類似・重複する事務事業がある。	
	【事業名】	
	受益者負担を求めることができる事業である。	
	全体コストにおける負担構成は適正である。	○
	コストに見合った効果となっていない。効果を絞り込むことでコストを削減する余地がある。	

昨年度の評価結果に基づく改善策への取り組み状況

改善策	二次救急医療体制の確保に向けて、関係機関との協議を進める。 医師や看護師等から24時間365日、いつでも電話にて救急相談に関するアドバイスを受けることができる「伊賀市救急相談ダイヤル24」事業を、平成22年7月1日から開始する。
昨年度の取組状況	【状況】 計画のとおり進んでいる 【詳細】 伊賀市救急相談ダイヤル24事業の実施や、「かかりつけ医」での受診をチラシ、ホームページ等で啓発した。

今後の方向性(Action)

担当課長氏名	田中 満
事業の方向性	【方向性】 拡大・充実
	【理由】 現状の2次救急医療体制の中上野総合市民病院の当番日において、入院が必要な内科系救急患者を他の地域の救急病院へ搬送する必要が生じているため、上野総合市民病院の内科常勤医の確保とともに、より充実した体制の確保が必要である。
現時点における課題、その他	二次救急医療体制の確保 消防本部による二次救急担当病院への搬送者のうち、半数以上が軽症者である。
課題、その他に対する改善策 (いつまでに、何を、どうする)	二次救急医療体制の確保に向けて、関係機関との協議を進める。